

吉田大朋のみた路地

～吉田大朋のみた路地「いつか・の都市TOKYO」～

池波正太郎のみた「東京」の記憶



© 堀口桂子

吉田大朋写真展「吉田大朋のみた路地」

2025年8月1日(金)から8月31日(日)

AM11:00からPM4:00まで(休館日 水・金)

入場料500円(写真のみ) *オルゴール・蓄音機鑑賞付き(午後3時より)入場料1000円

お問い合わせ TEL080-4152-7662e-mail kouheikarasawa@me.com

場所 ライティングハウスTOKYO南アルプスサロン

長野県諏訪郡富士見町落合4073

主催 NPO法人「心は灯と音と森の研究所」

協賛 ライティングハウスTOKYO(株) 後援(株)正光社





吉田大朋(写真家)

令和5年の女子美術大学工芸料の卒業生による染織の展示会や昨年の柚木沙弥郎追悼展「柚木沙弥郎の手仕事」展につづき、ライティングハウス「TOKYO南アルプス」のアーティスト企画はモード写真の分野を開拓し、ニューヨークやパリを拠点に、モード写真のあらたな分野を開拓した吉田大朋によるモードではない都市の横丁をとった古き良き古都「TOKYO」の残光を感じられる展示会を催します。

吉田大朋はパリで活躍していた頃、縁があり作家の池波正太郎とリヨンやマルセイユをはじめニース・ル・アーヴルを池波正太郎のガイド兼運転手として同行しました。その旅はのちに「あるシネマディクトへの旅」や「新しいもの古いもの」といった池波のエッセイで紹介されており、その旅で得た池波正太郎の東京への愛情、うつろいでゆく故郷である街の風景への想いを、のちに吉田は路地裏を被写体とすることで、写真家としての新境地を開拓することになりました。

今回、一般的によく知られるモード写真家としての吉田の面ではなく、池波正太郎との旅で得た懐旧の想いが感じられる東京の「路地」を被写体にした、しられていない写真家の別の姿をにふれていただける、あたらしい試みです。

休館日を除く会期中の午後3時からすわのねオルゴール館のご好意でお借りしているオルゴールとサロンに常設している蓄音機によるミニ・レコードコンサートもごさいます。(入館料含み千円)皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



山の日(8/11月祝)にはチェリストの住野公一さんとピアニストのデュオや諏訪アルプホルンクラブによるアルプホルンの演奏、そして清涼な響きを演出する、すわのねオルゴール館の大きなオルゴールの自動演奏も含む音楽会を開催します。(入場料二千円)

高原の涼しい風、森の中に流れる小川のせせらぎが響く、ライティングハウス「TOKYO南アルプス」が会場です。ぜひ、いらしてください♪

ライティングハウス「TOKYO(株)」は20周年を迎えました。十月十八日(土)に同社を施工した建築家のカール・ベンクス氏を迎えて講演会とすわのねオルゴール館のご協力によるミニコンサートを開催します。ライティングハウス「TOKYO(株)」は日本とドイツの友好年「2005-2006日本とドイツ年」に東京都江東区の亀戸に設立されたヨーロッパと日本の東西文明の伝統美が交わる文化の架け橋であり、(株)正光社の50周年を記念館であり、同社のショールームでもあります。